

# 1 部

学習サポート

## 各種申込締切について

『試験・スクーリング情報ブック』にてご確認ください。

- ・学年暦→p. 4～5      ・通信教育部カレンダー→p. 16～21
- ・演習・実習科目関連締切等  
社会福祉士 演習・実習科目関連締切等→p. 35～37  
精神保健福祉士 演習・実習科目関連締切等→p. 38～40

## 2022年11月以降の変更・留意点

### ●スクーリング日程

『試験・スクーリング情報ブック2022』より下記のとおり変更いたします。

- ・「社会調査の基礎」東京会場の日程【再掲】  
(変更前) 11/26・27→(変更後) 11/19・20
- ・「発達障害者の地域支援」の開講方法  
(変更前) 2/18・19仙台会場→(変更後) オンデマンド・スクーリング開講期21 ※会場スクーリングはなし。

## 対面による学習相談のご予約のお願い

対面による学習相談は、ご相談内容により対応できる職員の調整の必要などから事前のご予約をお願いしております。具体的な申込方法につきましては次ページの「新型コロナウイルス感染防止に関するお知らせ」の「◆対面での学習相談および自習室の仕様について」をご確認ください。

## 【再掲】昨今の日本郵便の郵便事情について

2021年10月より、日本郵便（郵便局）の普通扱いの郵送物サービスが土曜日配達休止・お届け日数の繰り下げとなっております。この影響により、普通扱いの郵便物の到着の遅延（3～7日）が確認されています。各種提出物につきまして、ご提出の際はご注意ください。締切日まで余裕をもってのご提出にご協力ください（p. 53も参照）。

## 新型コロナウイルス感染防止に関するお知らせ

9/7現在、9月以降の会場スクーリングの開講予定は本冊子4部、本学通信教育部ホームページ等の「新型コロナウイルス感染防止に伴う各種対応について（第20報）」をご参照ください。ただし、今後変更の可能性がございますので、最新情報をホームページ（<https://www.tfu.ac.jp/tushin/>）にてご確認ください。

### ◆対面での学習相談および自習室の使用について

現在、学習相談のみ申込を受け付けております。自習室再開の際は下記にしたがってお申し込みください。

- 1) 平日（水曜日のぞく）のみ利用可能となっております。日付は第2希望までご記入ください。
- 2) 「利用申込書」を提出し、予約が必要です。
- 3) 本学通信教育部HPからダウンロードした「利用申込書」を利用希望日の1週間前までにメール添付で提出してください（提出先uc@tfu.ac.jp）。
- 4) 郵送で提出する場合は、巻末様式を使用し、利用希望日の1週間前までにお申し込みください（返送先住所を明記し定形封筒に84円切手を貼付

した返信用封筒を同封)。

- 5) 当日は学生証の提示が必須となります。
- 6) 学習相談は平日の下記①～⑤となり1日一人1回の利用となります。  
午前 (①10:00～10:30、②11:00～11:30)  
午後 (③14:00～14:30、④15:00～15:30、⑤16:00～16:30)
- 7) 学習相談は講義に準ずるため、録音・録画はご遠慮ください。
- 8) 自習室(現在休止中)の利用可能時間は、平日(水曜日のぞく)の下記①②となり1日一人1回の利用となります(入室制限:1回4名)。  
なお、スクーリング開講日につきましては感染防止の観点から閉鎖させていただきます、使用できませんのでご注意ください。  
①10:00～12:00(120分) ②14:00～16:00(120分)

#### 【注意事項】

- 1) 学習相談または自習室(現在休止中)の使用を目的とした入構に限り  
ます。
- 2) 1回の学習相談は最長30分以内、1回の自習室使用(現在休止中)は  
最長120分以内となります。
- 3) 入館は開始時間5分前からになります。開始時間に遅れないようにお  
越してください。
- 4) 各終了時間には退室していただきます。
- 5) 入退館時は通信教育部職員が受付し、誘導いたします。
- 6) 入構時には、ご持参のマスク(不織布)着用および出入口での検温と  
手指消毒、チェックリストの記入が必要です。
- 7) 発熱のある方(体温37.5度以上)、体調不良の方は、入構することが  
できません。
- 8) 疾患をお持ちの方やご高齢の方など感染により重症化しやすい方は、  
メールや電話などでご相談いただき、自習室のご使用は自粛をお願いい

たします。

◆事務室各対応時間

〈電話〉 9 : 00～17 : 00(水曜日を除く)

〈メール〉 9 : 00～17 : 00

◆ご協力のお願い

- ・レポート、各種証明書の申込等は、郵送での提出にご協力ください。
- ・制限下での入構が可能となりましたが、引き続き、電話・メール・郵送でのご質問・ご相談にご協力ください。

注) 図書館(国見キャンパス)等については、本学図書館ホームページ(<https://www.tfu.ac.jp/libr/>)でご確認ください。

---

## 大雨・地震により被災された皆様へ

---

このたびの、各地における大雨や地震にて被災された皆様に心よりお見舞い申し上げます。

教科書・副教材(『学習の手引き』、レポート提出台紙など)に破損や流失などの被害を受けられた方には無料で再交付をいたします。また、被災により配慮等を希望される場合は通信教育部へご相談ください。

---

# 「学び」は続くよ、どこまでも

---

教員 MESSAGE

通信教育部副部長・准教授 **松本 祥子**

---

最近、みなさんは東北福祉大学 通信教育部のホームページを閲覧したことはありますか？

「入学をご希望の方へ」をクリックし、スクロールしていくと「東北福祉大学 通信教育部の特徴」がまとめられています。18歳から88歳までという幅広い年代の2,317名が、福祉を学ぶために全国各地から本学通信教育部に集まっています。在学生の平均年齢は41歳、40代が最も多く、次に20代、50代と続きます。本学通信教育部の特徴は、在籍者の約7割が仕事に就いている点です。総合福祉学部ですから福祉関連職従事者の占める割合がもっとも大きいのですが、それ以外にも銀行員など会社員、看護師といった医療関係従事者と多様な職業の方が学んでいます。

こうした通信教育部の姿は、まさに何歳になっても学ぶ意欲をもっていれば、学び続けられることを教えてくれます。様々な状況に置かれている人々が、大学で福祉に関する専門的知識を身に付けようと日々、努力しています。

本学通信教育部で学ぶみなさんをみて、私も自分の学びについて振り返ってみようと思いました。私は、現在、東北福祉大学総合福祉学部の教員で家族社会学を専門としています。

日本では小学校と中学校は義務教育ですが、高校と大学は義務教育ではありません。ですから、本当は、「もっと学びたいから高校に入る、大学に進学する」はずです。しかし、自分自身の高校受験、大学受験を振り返ってみると、どれだけ「もっと学びたいから」があったか疑問です。「みんなが行くから」など「もっと学びたい」以外の理由で、高校、大学へと進んだ気がします。高校でも教室の机に座って先生の授業は聞いていまし

たが、それは「やらなければならないからやっている」だけでした。そこには、学ぶ楽しさ、喜びはありませんでした。

そうした私の転機となったのが、大学1年生の秋に受講した家族社会学の授業です。「家族っておもしろい！」と、第1回目の授業で魅了されました。家族とは何か、家族内関係や役割分担のあり方に関する社会学の講義は、私に「学ぶ楽しさ」を教えてくださいました。この経験は、私を「もっと学びたい」へと駆り立てました。家族社会学のゼミにはいり、家族を卒業研究のテーマとし、さまざまな家族にインタビューをおこなって卒業論文を書きあげました。これが私の主体的学びの始まりでした。

私は、その後、大学院を修了し、大学での研究・教育の仕事に就きました。教えられる立場から教える立場へと変わりました。教える立場に立つには、「もっと学ぶ」ことが不可欠でした。一つには、どうすれば学生に伝わるのか、教え方について学び続ける必要がありました。もう一つは、すさまじいスピードで変化する現代社会にあわせて、教える事柄をつねにアップデートする必要がありました。私が学生のときに教えられた最先端はすでに過去のものであり、新しい最先端をつねに学ばなければなりません。こうした「学び続ける」姿勢は、私の場合、大学1年生の家族社会学の授業の経験に支えられています。「学ぶ楽しさ」を知ったがゆえに「もっと学びたい」と道を選んできたのです。

最終学歴イコール最終学習ではありません。つぎつぎと新しいものが出現し変わり続ける現代社会で生きるには、つねに学び続けることが求められています。みなさんも、この学び続ける必要性を痛感したが故に、本学通信教育部の門を叩いたのかもしれませんが、一人ひとりの学びが、それぞれの「学ぶ楽しさ」に支えられていることを願ってやみません。

みなさんが自分にあったスタイルで学ぶ楽しさを追究できるよう、本学でもサポートをしていきたいと思います。

※東北福祉大学通信教育部ホームページ（2022年8月31日現在） <https://www.tfu.ac.jp/tushin/index.html>

